

近代土木遺産の一般公開－湊川隧道－

神戸大学 大学院工学研究科 正会員 ○神吉 和夫
 神戸大学 都市安全研究センター 正会員 市成 準一

1. はじめに

新湊川トンネルの建設により供用を停止した、わが国初の近代河川トンネルである湊川隧道(1901(明治34)年創設)は、地域の文化を継承する貴重な歴史遺産として管理者である兵庫県により保存と公開のための整備を行われ、2002(平成14)年秋から一般公開が開始された。それに先立ち、2001(平成13)年7月、保存検討委員会委員の呼びかけにより、湊川隧道保存友の会(以下、友の会と略記。会長:神吉和夫)が結成された。本稿では、友の会による湊川隧道一般公開の概要を示す。

2. 湊川隧道と一般公開施設の概要

湊川隧道は神戸市兵庫区北部に位置する会下山の地下を掘り抜いた河川トンネルで、民間企業である湊川改修株式会社により建設(施工は大倉土木)され、明治34年3月に完成した。(図-1,2 参照)トンネル内壁にあった銘板によると、起工、竣工の時期、トンネルの規模は次の通りである。

「長三百三十二間、最大巾二十四尺、最大高二十五尺、明治三十一年八月東口起工、明治三十一年十月西口起工、明治三十二年九月導坑貫通、明治三十四年三月竣工」

332 間=603.5m, 24 尺=約 7.3m, 25 尺=約 7.6m.

湊川隧道の断面形状は馬蹄形で、側壁はイギリス積み、アーチ部が長手積みの煉瓦造り、地山とトンネルの間は栗石が裏込め材として充填され、底面表面は花崗岩の切石を並べている。

湊川隧道一般公開施設(図-3, 4 参照)

入口: 新湊川トンネル脇に湊川隧道坑門に似せた石・煉瓦造り。金属製門扉付き。「湊川隧道」の扁額。右脇に掲示板と隧道内の電源ボックス。左脇に煉瓦コア、吐口坑門アーチ要石を展示。

湊川隧道連絡通路: コンクリート製トンネル、幅 4m、高さ 4.8m。長さ 80m、勾配 1/7。

各種パネルを展示



図-1 湊川改修計画の変遷

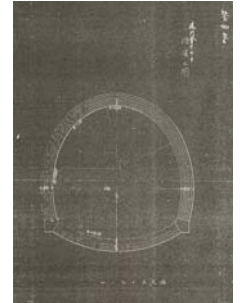


図-2 湊川隧道設計図

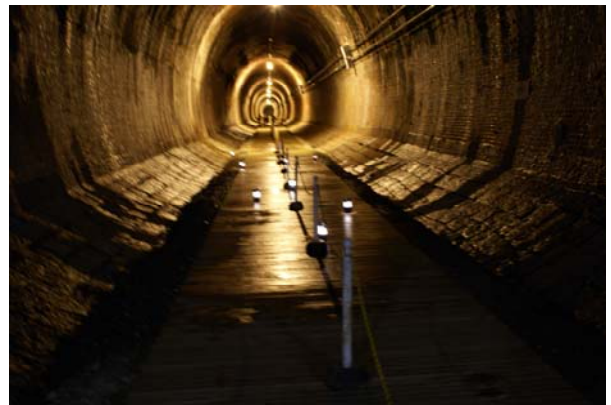


図-3 湊川隧道と見学用の木道

湊川隧道:

- ・内巻補強部(長さ 40m)
- ・煉瓦巻部(230m) 一部に落石防止ネット
- ・吹き付けコンクリート部(40m)
- ・煉瓦巻部(90m)



図-4 湊川隧道の入口

木道: 内巻き補強部を

始点として 170m、幅 2.5m。終端部のみ拡幅。兵庫県産の間伐材使用。平成 18 年 4 月完成。なお、木道完成以前は湊川隧道区間全面に碎石が敷かれていたが、歩きにくいこととインバートの石材が隠れてしまう欠点があるため、木道設置時に撤去。

転流坑部: コンクリート製、幅 4m、高さ 5.2m、長さ

キーワード 湊川隧道、一般公開、友の会

連絡先 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 TEL & FAX 078-803-6059

100m(新湊川トンネル建設時に使用したバイパス流路)、終端は金属製格子門扉、外側は新湊川。途中にマウンドがあり、新湊川洪水時の逆流入を軽減)

湊川隧道連絡通路部には左右壁に 30m ピッチで、また転流坑部に 20m ピッチでブラケットライト。残りの中央部はトンネル上部に 40m ピッチでペンダントライト。全区間にわたり 13.3m ピッチで非常用照明灯がある。電源コンセントも 30m ピッチ。

なお、湊川隧道部は漏水があり、雨天時に天井から雨がしたり落ちる場所が数か所できる。

3. 湊川隧道保存友の会による湊川隧道一般公開

友の会は会員数約 100 名、会費 1,000 円(平成 18 年度からは正会員 1,500 円、賛助会員 1,000 円)で地元の方が多い。別に一口 10,000 円の法人会員が多いときで 11 社。当初、年 1 回の見学会を主催・県などとの共催により行った。平成 17 年度までは別途、春に総会・講演会、夏に講演会を毎年実施。

平成 18 年度に規約改正を行い、7 月の総会・講演会と年 10 回(原則として 1,2 月を除く毎月第 3 土曜日の午後 1 時～4 時)の一般公開を実施している。平成 18 年度の一般公開は兵庫県神戸県民局と平成 18 年度「湊川隧道定期一般公開」事業委託契約を結び、委託料の交付を受け実施している。平成 18 年度の委託料の内容は説明パネル制作費、説明パンフレット作成費、ボランティア保険料、スタッフジャンパー、交通費などであるが、一般公開に必要な備品類(液晶プロジェクター、スクリーン、トランシーバー)も別途県が購入し友の会に貸与している。

友の会による平成 18 年度の湊川隧道一般公開の実績を表-1 に、見学風景を図-5,6 に示す。開催にあた



図-5 見学風景 1



図-6 見学風景 2

り地元消防署に防火管理者・消防計画書および催物開催届出書を提出している。友の会正会員がボランティアとして隧道の説明、誘導を行う。人数は参加者の安全確保を重視し、10 名を確保するようにした。実績をみると、参加人数は最少 33 名、最大 357 名である。参加者の多い順にみると新湊川まつりのあった日、ミニコンサートの日、神鉄ウォークの日、兵庫県公式発表があり新聞に大きく報道された 8 月、その翌月となる。新湊川まつりの日は開催時間も午前 9 時から午後 4 時と延長していることも大きいかも知れない。神鉄ウォークの時も午前 11 時から開催している。一方、参加者の少ない順にみると 6 月、5 月、12 月、7 月となる。5 月、6 月は PR をしなかった試行として公開した日、12 月も PR していない。

平成 18 年度の参加者総数 1,400 余名は年 1 回の一般公開時の最大参加人数約 2,500 名を下回るが、今後 PR 方法の改善をすれば増加するものと思われる。

4. おわりに

年 10 回の湊川隧道一般公開は始まったばかりである。今後とも施設を管理する神戸県民局と相談しながら、この国指定重要文化財級とされるわが国初の近代河川トンネルの保存・活用に資する活動をこれからも永く続けていくことにしたい。

表-1 湊川隧道保存友の会による平成 18 年度湊川隧道一般公開の実績

	天気	参加者(人)	ボランティア(人)	備考
5月20日	晴	50	14	試行
6月17日	雨	33	11	試行
7月15日	晴	59	10	総会・講演会の午後
8月19日	大雨	144	11	兵庫県の公式発表とマスコミ報道
9月16日	晴/曇り	113	11	
10月1日	雨	357	15	新湊川まつり、トンネル写真展・講演会
10月21日	晴	80	12	近代化遺産全国一斉公開
11月19日	晴/曇り/雨	251	13	神鉄ウォーク
12月16日	晴	57	13	
3月17日	晴	264	13	ミニコンサート